

臨床実地問題 50問(解答時間2時間)

- 1 OCT像を別図1A, 1Bに示す。
正しいのはどれか。2つ選べ。
- a 別図1Aの星印は前篩状板である。
 - b 別図1Aの黒丸内にBruch膜断端がある。
 - c 別図1A, 1Bともに視神経乳頭部の断層像である。
 - d 別図1Bは眼底の上下方向の断層像である可能性が高い。
 - e 別図1Bの矢印の部位は乳頭周囲脈絡網膜萎縮の α 領域である。
- 2 11歳の女児。眼底写真を別図2に示す。
この眼底異常と同じ時期に生じる眼発生過程障害はどれか。2つ選べ。
- a 無眼球症 b 無水晶体症 c 瞳孔膜遺残 d 視神経乳頭小窩 e 脈絡膜コロボーマ
- 3 検査に用いる器具を別図3A, 3Bに示す。
正しいのはどれか。2つ選べ。
- a 別図3Aは無麻酔で測定可能である。 b 別図3Aは反跳式眼圧計のチップである。
 - c 別図3Bは圧入式眼圧計のチップである。 d 別図3A, 3Bを用いた眼圧計の測定値は互換性がある。
 - e prostaglandin associated periorbitopathy (PAP)に対して別図3Bのほうが有用である。
- 4 30歳の女性。コンタクトレンズの処方希望して近医を受診し、右眼の眼底異常を指摘されたため来院した。矯正視力は両眼ともに1.0。全身疾患の既往はない。右眼眼底写真と病変部OCT像を別図4A, 4Bに示す。診断はどれか。
- a 脈絡膜母斑 b 悪性黒色腫 c 三角症候群
 - d 網膜色素上皮肥大 e 網膜裂孔に対する光凝固斑
- 5 涙道内視鏡所見を別図5に示す。
正常所見はどれか。2つ選べ。
- a ㉠ b ㉡ c ㉢ d ㉣ e ㉤
- 6 ある年に受診した患者850名の角膜内皮細胞密度と年齢の関連について検討を行った。結果を別図6に示す。
正しいのはどれか。2つ選べ。
- a 介入研究である。
 - b 前向き研究である。
 - c 年齢と角膜内皮細胞密度の関連をみた散布図である。
 - d 年齢から角膜内皮細胞密度を予測するには回帰分析を行う。
 - e 年齢と角膜内皮細胞密度の相関係数の符号は+ (プラス)である。
- 7 治療薬Aの効果について多施設から報告された8つの研究をまとめた。結果を別図7に示す。
正しいのはどれか。3つ選べ。
- a 箱ひげ図である。 b メタアナリシスである。
 - c 全研究で結果の方向性は同じである。 d 治療薬Aは有意にリスクを低下させる。
 - e 相対危険度と95%信頼区間が示されている。
- 8 研究の概要を別図8に示す。
研究デザインとして正しいのはどれか。
- a 症例報告 b 症例対象研究 c コホート研究 d メタアナリシス e 非ランダム化比較試験

- 9 85歳の男性。左眼瞼腫瘍を主訴に来院した。外眼部写真と生検の病理組織像を別図 9A, 9B, 9C に示す。
適切な対応はどれか。
- a 抗菌薬眼軟膏 b 副腎皮質ステロイド眼軟膏 c 切開・排膿
d 拡大切除 e 化学療法
- 10 7歳の男児。角膜に血管侵入を伴う結節状浸潤を認める。前眼部写真を別図 10 に示す。
治療で誤っているのはどれか。
- a 抗菌点眼薬 b 抗菌薬の内服 c 免疫抑制点眼薬
d Meibom 腺の温罨法 e 副腎皮質ステロイド点眼薬
- 11 22歳の男性。1週前から発熱と頭痛があり、右眼の充血と痛みおよび視力低下を自覚したため来院した。矯正視力は右 0.5, 左 1.0。眼圧は右 19 mmHg, 左 20 mmHg。右上眼瞼の腫脹と皮疹を伴っている。右眼前眼部写真とフルオレセイン染色写真を別図 11A, 11B に示す。
治療に用いられる薬剤はどれか。
- a ペニシリン b ポリコナゾール c インフリキシマブ
d 副腎皮質ステロイド e バラシクロビル塩酸塩
- 12 33歳の女性。左眼の充血と異物感が出現し近医を受診した。処方されたレボフロキサシン水和物点眼薬を1週間使用したが改善がないとのことで来院した。前眼部写真とフルオレセイン染色写真を別図 12A, 12B に示す。
追加すべき薬剤はどれか。
- a ピマリシン点眼薬 b アシクロビル眼軟膏 c 副腎皮質ステロイド点眼薬
d アミノグリコシド系点眼薬 e ヒアルロン酸ナトリウム点眼薬
- 13 60歳の男性。人間ドックで眼底写真が写らないため、精査目的で来院した。以前から角膜が白いことを指摘されていたという。前眼部写真を別図 13 に示す。
この疾患で正しいのはどれか。
- a 脂質の沈着 b カルシウムの沈着 c アミロイドの沈着
d 異常なケラタン硫酸の沈着 e *MISI* 遺伝子の異常
- 14 40歳の男性。聴神経腫瘍で頭蓋内手術を受けた後に左眼の視力低下で来院した。前眼部写真を別図 14A, 14B に示す。
確認すべきことはどれか。2つ選べ。
- a 隅角検査 b 閉瞼不全 c マイボグラフィ
d Cochet-Bonnet 角膜知覚検査 e スペキュラマイクロスコープ
- 15 78歳の女性。8年前に左眼白内障手術を受けた。1年前から左眼の霧視を自覚していた。定期検査で来院した際の矯正視力は左 0.7。眼底に特記すべき所見は認めない。前眼部写真を別図 15 に示す。
正しいのはどれか。2つ選べ。
- a 硝子体手術を行う。 b 眼内レンズ摘出を行う。
c コントラスト感度が低下する。 d 霧視の原因は眼内レンズの混濁である。
e Nd: YAG レーザーを用いた後発白内障手術を行う。
- 16 10歳の男児。左眼眼底写真を別図 16 に示す。右眼も同様である。
正しいのはどれか。
- a 男児に多い。 b 夜盲を自覚する。 c 視力低下を来す。
d 色覚異常を合併する。 e 感音性難聴を合併する。

- 17 78歳の女性。2か月前からの右眼の視力低下を主訴に来院した。矯正視力は右0.1。眼底写真とOCT像およびフルオレセイン蛍光眼底造影写真を別図17A, 17B, 17Cに示す。
適切な治療はどれか。
- a 網膜光凝固 b 光線力学療法 c 抗VEGF薬硝子体内注射
d 副腎皮質ステロイド内服 e 副腎皮質ステロイドテノン嚢下注射
- 18 12歳の男児。7日前にサッカーボールが右眼に当たり来院した。矯正視力は右0.8。右眼眼底写真を別図18に示す。
現時点で適切な対応はどれか。
- a 経過観察 b 硝子体手術 c 硝子体内ガス注入
d 抗VEGF薬硝子体内注射 e 副腎皮質ステロイドテノン嚢下注射
- 19 34歳の男性。健康診断で左眼黄斑部の異常を指摘されて来院した。視力は両眼ともに1.2(矯正不能)、自覚症状はない。左眼眼底写真とOCT像を別図19A, 19Bに示す。
適切な対応はどれか。
- a 経過観察 b 硝子体手術 c 光線力学療法
d 抗VEGF薬硝子体内注射 e 副腎皮質ステロイド内服
- 20 83歳の女性。左眼の視力低下に気づき来院した。眼底写真を別図20に示す。
最も考えられる診断はどれか。
- a 脈絡膜骨腫 b 転移性脈絡膜腫瘍 c 網膜細動脈瘤破裂
d 網膜内血管腫状増殖(RAP) e ポリープ状脈絡膜血管症(PCV)
- 21 副腎皮質ステロイドが誘引となるのは別図21のどれか。
- a ㉠ b ㉡ c ㉢ d ㉣ e ㉤
- 22 61歳の男性。右眼眼底写真を別図22に示す。
正しいのはどれか。2つ選べ。
- a 高齢者に多い。 b 糖尿病患者に多い。 c 両眼性症例が多い。
d 脂質異常症患者に多い。 e 後部硝子体剥離がないことが多い。
- 23 53歳の男性。4日前からの右眼の充血と眼痛を主訴に来院した。矯正視力は右0.09, 左1.5。眼圧は右19 mmHg, 左16 mmHg。4年前に潰瘍性大腸炎を指摘されたが、治療は行っていない。右眼前眼部写真を別図23A, 23Bに示す。
この疾患にみられるのはどれか。2つ選べ。
- a 前房蓄膿 b 虹彩結節 c 虹彩色素脱失
d 豚脂様角膜後面沈着物 e 前房内フィブリン析出
- 24 68歳の女性。右眼の視力低下を主訴に来院した。眼底写真を別図24に示す。
コンサルトすべき診療科はどれか。
- a 皮膚科 b 脳神経内科 c 内分泌内科 d 呼吸器内科 e 耳鼻咽喉科
- 25 64歳の男性。10年前から数年に1回の頻度で左眼の虹彩炎と眼圧上昇を起こしている。昨日から左眼の霧視を自覚したため来院した。矯正視力は左1.2。眼圧は左22 mmHg。前眼部写真を別図25に示す。
この疾患にみられるのはどれか。2つ選べ。
- a 前房出血 b 網膜出血 c 黄斑浮腫 d 続発緑内障 e 角膜内皮細胞数の減少

- 26 58歳の女性. 10日前から右眼の霧視を自覚したため来院した. 矯正視力は右1.2. 右眼眼底写真とフルオレセイン蛍光眼底造影写真を別図 26A, 26B に示す. 左眼の眼底は正常である.
診断に有用な血液検査はどれか.
- a β -D-グルカン b 抗トキソカラ抗体 c 抗リカバリン抗体
d 抗トキソプラズマ抗体 e インターフェロン γ 遊離試験
- 27 40歳の男性. 1週間前から右眼の霧視と視力低下を自覚したため来院した. 矯正視力は右0.6. 右眼前眼部写真と眼底写真を別図 27A, 27B に示す. 左眼は正常である.
治療に用いられるのはどれか.
- a シクロスポリン b インフリキシマブ c メトトレキサート
d バラシクロビル塩酸塩 e シクロホスファミド水和物
- 28 17歳の女子. 右眼の視力低下を主訴に来院した. 10日前に右眼の霧視と変視を自覚し, 症状は徐々に進行している. 視力は右0.06(0.3 \times +1.00 D \ominus cyl-2.50 D Ax180 $^\circ$), 左1.0(矯正不能). 眼圧は右10 mmHg, 左13 mmHg. 右眼に前房炎症と軽度の硝子体混濁がある. 右眼眼底写真とフルオレセイン蛍光眼底造影写真を別図 28A, 28B に示す.
適切な治療薬はどれか.
- a スピライマイシン b アモキシシリン水和物 c エタンプトール塩酸塩
d バラシクロビル塩酸塩 e ジエチルカルバマジンクエン酸塩
- 29 15歳の女子. 混合乱視があり定期的に来院している. 左眼 \pm 0.50 Dのクロスシリンダーでの測定を別図 29A, 29B に示す. 現段階で左眼+2.00 D \ominus cyl-2.50 D Ax180 $^\circ$ で矯正されており, 患者は別図 29A より別図 29Bの方が良く見えるという.
検眼枠に組み替えるレンズはどれか.
- a +1.50 D \ominus cyl-2.00 D Ax180 $^\circ$
b +1.50 D \ominus cyl-2.50 D Ax180 $^\circ$
c +1.75 D \ominus cyl-3.00 D Ax180 $^\circ$
d +2.00 D \ominus cyl-3.50 D Ax180 $^\circ$
e +2.50 D \ominus cyl-3.50 D Ax180 $^\circ$
- 30 22歳の女性. コンタクトレンズ作製を希望して来院した. オートレフケラトメータの検査の結果を別図 30 に示す.
正しいのはどれか.
- a 等価球面值は右眼の近視が強い. b 屈折度数は両眼ともに倒乱視である.
c 角膜乱視は両眼ともに直乱視である. d 角膜乱視以外の乱視要素は左眼が大きい.
e ハードコンタクトレンズが第一選択である.
- 31 7歳の女児. 左眼不同視弱視の診断で3年前から眼鏡装用での屈折矯正と健眼遮閉を行い, 視力は改善している. 視力は右1.0(1.5 \times +1.00 D), 左0.6(0.9 \times +3.50 D). 遠見での交代遮閉試験では8 Δ の内斜偏位がみられ, 近見立体視における閾値は480秒であった. Bagolini 線条レンズ検査の結果を別図 31 に示す.
考えられる結果はどれか.
- a ㉠ b ㉡ c ㉢ d ㉣ e ㉤
- 32 51歳の男性. 上下斜視に対して斜視手術を施行した. 術前と術後の Hess 赤緑試験の結果を別図 32 に示す.
行われた斜視手術はどれか.
- a 左眼上斜筋後転術 b 左眼上直筋後転術 c 左眼下斜筋後転術
d 右眼下斜筋後転術 e 右眼上斜筋後転術

- 33 72歳の女性。1年前から左眼が内側に寄り動かなくなったため来院した。視力は右0.3(0.6×+1.50 D ⊂ cyl -3.25 D Ax110°), 左0.01(矯正不能)。20年前に両眼の白内障手術を受けている。眼位写真を別図33に示す。診断に必要な検査はどれか。
- a 頭部MRI b 眼軸長測定 c 両眼単一視野 d Hess 赤緑試験 e Krimsky プリズム試験
- 34 5歳の女兒。近くを見たときに内斜視が強くなることを主訴に来院した。5 m と 30 cm での眼位写真を別図34A, 34Bに示す。視力は右(1.5×+3.75 D ⊂ cyl-0.75 D Ax175°), 左(1.2×+4.00 D ⊂ cyl-1.25 D Ax180°)。完全矯正下の眼位は5 m で2Δの外斜位, 30 cm で12Δの内斜視であった。正しい対応はどれか。2つ選べ。
- a 交代遮閉訓練を行う。
b プリズム順応検査を行う。
c 二重焦点眼鏡を処方する。
d -3.00 D 付加で交代プリズム遮閉試験を行う。
e 球面度数から2.00 D 減じた単焦点眼鏡を処方する。
- 35 28歳の男性。両眼の近視性乱視に対して眼鏡を常時装着している。両眼で見ようとするとぼやけて見えにくくなってしまふとの訴えで来院した。生来健康で全身疾患はなく、両眼ともに器質的異常を認めない。遠近ともに50Δの間欠性外斜視を認める。外斜視で単眼視のときと斜位に持ち込んだ両眼視のときの屈折値を別図35に示す。良好な両眼視を得るために最も適切な治療はどれか。
- a 斜視手術 b 輻湊訓練 c 片眼遮閉 d 近視過矯正眼鏡 e フレネル膜プリズム
- 36 53歳の女性。2日前からの左眼眼球運動時激痛と視力低下を主訴に来院した。視力は右1.0(1.2×-0.50 D), 左手動弁(矯正不能)。左眼に相対的瞳孔求心路障害を認める。抗アクアポリン4抗体は陰性である。眼底写真と眼窩部MRI 脂肪抑制ガドリニウム造影像を別図36A, 36Bに示す。正しいのはどれか。
- a 再発しやすい。 b 女性に好発する。 c 水平半盲を呈する。
d 細胞性免疫の異常である。 e 迅速な血液浄化療法を要する。
- 37 16歳の男子。近医眼科で眼底の異常を指摘され、紹介されて来院した。視力は右0.3(1.2×-2.00 D), 左0.2(1.2×-2.50 D)。眼圧は右17 mmHg, 左16 mmHg。眼底写真と初診時および5年後の視野検査の結果を別図37A, 37B, 37Cに示す。適切な対応はどれか。
- a ERG b 経過観察 c 頭部MRI d 緑内障点眼薬処方 e 心理カウンセリング
- 38 右視神経と右動眼神経が同時に障害されたときの光刺激時の瞳孔所見を別図38に示す。正しいのはどれか。2つ選べ。
- a ㉠ b ㉡ c ㉢ d ㉣ e ㉤
- 39 77歳の男性。前眼部写真を別図39に示す。この疾患に合併しやすい病態はどれか。2つ選べ。
- a 眼圧変動 b 先天性難聴 c 黄斑部低形成 d Zinn 小帯脆弱 e 前眼部形成不全
- 40 50歳の女性。右眼の視力低下を自覚したため来院した。矯正視力は右1.5。眼圧は右24 mmHg。高血圧と糖尿病の既往がある。右眼前眼部写真と隅角写真およびフルオレセイン蛍光眼底造影写真を別図40A, 40B, 40Cに示す。適切な治療はどれか。2つ選べ。
- a 硝子体手術 b 網膜光凝固 c 副腎皮質ステロイド内服
d 抗 VEGF 薬硝子体内注射 e 副腎皮質ステロイドテノン嚢下注射

- 41 15歳の男子。転倒し地面に左顔面を打ち、救急搬送された。眼窩CT像を別図41Aに示す。
Hess赤緑試験の結果は別図41Bのどれか。
a ㉠ b ㉡ c ㉢ d ㉣ e ㉤
- 42 76歳の女性。右眼の全層角膜移植術後9か月目の診察時に移植片周辺部に白色の混濁がみられた。前眼部写真とフルオレセイン染色写真および病巣部擦過塗抹標本写真を別図42A, 42B, 42Cに示す。
適切な治療はどれか。
a ピマリシン眼軟膏 b アシクロビル眼軟膏 c アミノグリコシド系点眼薬
d 副腎皮質ステロイド点滴静注 e バルガンシクロビル塩酸塩内服
- 43 65歳の男性。1か月前からの流涙と視力低下を主訴に来院した。半年前に胃がんの手術を受け、その後、抗がん剤(TS-1[®])を内服している。前眼部写真とフルオレセイン染色写真を別図43A, 43Bに示す。
適切な治療はどれか。2つ選べ。
a 抗菌薬点眼 b 人工涙液点眼 c 治療用ソフトコンタクトレンズ装用
d 涙点プラグ挿入術 e 涙管チューブ挿入術
- 44 術中写真を別図44に示す。
この手術で正しいのはどれか。2つ選べ。
a 小児に適応がある。 b 白内障手術を同時に行う。
c 原発閉塞隅角緑内障は良い適応である。 d 重度視野障害を有する緑内障にも適応がある。
e 線維柱帯切開術の既往のある眼には施行できない。
- 45 58歳の女性。2週間前から左眼の霧視を自覚したため来院した。矯正視力は右0.9, 左0.2。眼底写真とOCT像を別図45A, 45Bに示す。
適切な治療はどれか。
a 内科的治療 b 副腎皮質ステロイド内服 c 左眼汎網膜光凝固
d 左眼抗VEGF薬硝子体内注射 e 左眼副腎皮質ステロイド後部テノン嚢下注射
- 46 66歳の男性。左眼の巨大裂孔網膜剝離に対して、硝子体手術が行われた。術後1か月の視力は左0.9(矯正不能)と改善した。左眼眼底写真とOCT像を別図46A, 46Bに示す。
適切な対応はどれか。
a 腹臥位 b 網膜光凝固 c トリアムシロニアセトニドテノン嚢下注射
d 強膜内陥術 e 硝子体手術
- 47 別図47に示す疾患の術式選択に最も影響を与えるのはどれか。
a ㉠ b ㉡ c ㉢ d ㉣ e ㉤
- 48 右眼の格子状変性に伴う網膜裂孔(別図48A①)をGoldmann三面鏡のミラー(別図48B)で観察している。
裂孔部位の写り方(別図48B)とさらに別図48A②を観察するための三面鏡の動かし方で正しい組合せはどれか。
a ㉠——反時計回り
b ㉡——時計回り
c ㉢——反時計回り
d ㉣——反時計回り
e ㉤——時計回り

49 74歳の女性。甲状腺眼症による左眼の上転制限に起因する斜視に対し、左眼の斜視手術を施行した。左眼の頭側から施行している術中写真を別図49に示す。

正しいのはどれか。

- a 術中頰脈になることがある。
- b 操作している外眼筋は下斜筋である。
- c 筋を操作しているのはスパーテルである。
- d 眼球をこれ以上上転させるのに強い抵抗がある。
- e 筋付着部から約5 mm離れた筋腹へ糸をかける。

50 55歳の女性。右眼の原発開放隅角緑内障に対し1週前に線維柱帯切除術を受けた。矯正視力は右0.9。眼圧は右5 mmHg。Seidel試験陰性。前眼部写真と眼底写真および黄斑部OCT像を別図50A, 50B, 50Cに示す。

最も適切な対応はどれか。

- a 経過観察
- b 結膜縫合術
- c 強膜開窓術
- d 強膜内陥術
- e 硝子体切除術